

編集後記

『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第九号をお届けいたします。刊行にあたっては、関係各位に多大なお力添えをいただきました。深く感謝申し上げます。

今号の内容は、文部科学省「平成二四年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された「20世紀日本における知識人と教養―丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用―」プロジェクト（本誌では「丸山眞男研究プロジェクト」と略記しています）の一年目の活動報告、そして本センターが従来行ってきた活動の二〇二二年度の報告によって構成されています。なお、今号は文部科学省「平成二四年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の助成によって刊行されます。

プロジェクトの一年目を終えて、今号では、安藤信廣氏（本学教授）・黒沢文貴氏（同教授）に活動報告をまとめていただきました。プロジェクト全体の進捗状況をご確認いただけます。また、丸山文庫所蔵の福沢諭吉関係資料（草稿・速記稿類）の概況について、プロジェクトメンバーの松沢弘陽氏（北海道大学名誉教授）がこれまでの調査をまとめて下さいました。なお、本プロジェクトの意義につきましては、前号に掲載されました安藤氏の「20世紀日本における知識人と教養―丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用―」プロジェクトについて”をご参照ください。

プロジェクトの具体的な活動として、第二回定例研究会でご報告いただいた土合文夫氏（本学教授）・清水靖久氏（九州大学教授）の概要を掲載し

ました。特に、特別講師としてお招きした清水氏は、丸山文庫の資料も活用された研究報告をして下さいました。深く感謝申し上げます。なお、第一回研究会の概要は、プロジェクト採択一年目の活動報告として前号に掲載いたしました。

また、プロジェクトの研究成果を他の研究者や関心のある一般の方々と共有し議論を深めるために、新たに「公開研究会」を立ち上げました。第一回は、河野有理氏（首都大学東京准教授）にご報告いただきました。

二〇二二年度の記念講演会には、ハーバード大学教授のアンドルー・ゴードン氏を講師にお迎えしました。今回のご講演では、二〇一一年三月一日の東日本大震災を目の当たりにして、私たちには何ができるのか、どのようにして現状を知ることができるか、また、現代社会でデジタルアーカイブを構築し活用することにどのような意義があるか――そうした多様な関心に応じて下さいました。その模様は、今号に掲載されたご講演および参加者との質疑応答の記録からうかがうことができます。今号の記録の掲載におきましても、ご多忙のなか丁寧にご推察して下さい、画像のウエブ掲載など格別のご高配を賜りました。ゴードン氏に深く感謝申し上げます。

今号では、丸山文庫が所蔵する未発表資料二篇と丸山宛吉野源三郎書簡とを翻刻いたしました。未発表資料のうち、「一九四七年度「東洋政治思想史」講義原稿」は、プロジェクトメンバーの宮村治雄氏（成蹊大学教授）に、「近代的ナショナリストとしての福沢先生（一九五〇年講演・速記稿）」

は同じくメンバーの松沢氏に、本文の校訂と解説の執筆とをさせていただきました。また、吉野書簡の編集に際して、竹田行之氏（岩波書店元編集者）にご協力を仰ぐことができました。竹田氏は、今回の翻刻のために度々丸山文庫室まで足を運んで下さり、直後注作成のための調査のほか、書簡の翻刻に求められる配慮や技術についてご指導下さるなど、多大なご助力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

他方、本センターの活動報告としまして、丸山文庫では、二〇二二年度に雑誌を公開し、一部の非公開資料を除くほぼすべての資料を公開するに至りました。丸山文庫顧問・協力の会をはじめ、ご尽力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。また、丸山旧蔵図書や音声記録、受講ノートなど関連資料を新たに寄贈・寄託して下さった関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。これらの資料が学内外の多くの研究者に活用されることを期待しております。

公開授業「共通科目「比較思想」」では、学外より吉馴明子氏をお招きし、後期の授業をご担当いただきました。本学の理念とも密接に関わるテーマの講義は、本学卒業生を含む一般受講者からも好評でありました。

最後に、本センターのこれらの活動が、丸山眞男研究プロジェクトのみならず、学内外の関連分野の研究に資するものとなりますよう、関係者一同祈念しております。

大久保喬樹（丸山眞男記念比較思想研究センター長）

東京女子大学比較文化研究所附置

丸山眞男記念比較思想研究センター報告 第九号

二〇一四年三月二二日発行

編集 大久保喬樹

発行 東京女子大学

〒167-8585 東京都杉並区善福寺二一六一

印刷 (株)丸井工文社

